

# To the Next Stage

～四中前進！「学び」で一歩一歩のNextStageへ～

7月号A面

7月24日発行



舞台を東北・全国へ前進！

全国の精鋭たちに学べ!!

陸上！井藤(3-1)800m走

水泳！松坂(3-3)200m個人メドレー・400m個人メドレー

柔道！宇田(3-2)男子55kg級(戸沢道場)

7月18日～22日に県内各地で山形県中学校総合体育大会が行われました。これまでの練習の成果を発揮してくれました。混戦の中を勝ち抜き東北大会、全国大会への出場権を獲得した競技もあれば、惜しくも悔し涙を流した競技もありました。いずれも、Nextstageへ前進している証です。この経験を生かし、さらに四中を、失敗を恐れず挑戦できる骨太の学校に引き上げてほしいと思っています。(個人戦については入賞者のみの掲載)

## ☆水泳競技

- ・男子200m個人メドレー 第2位 松坂琉星 (3-3) **大会新！東北・全国大会出場！**
- ・男子400m個人メドレー 第2位 松坂琉星 (3-3) **東北・全国大会出場！**
- ・女子200m背泳ぎ 第6位 後藤由奈 (3-2)
- ・女子200m個人メドレー 第4位 後藤由奈 (3-2) **東北大会出場！**

## ☆陸上競技

- ・男子共通800m 第1位 井藤 慶 (3-1) **東北・全国大会出場！**
- ・男子2,3年1500m 第3位 井藤 慶 (3-1) **東北大会出場！**
- ・女子走高跳 第5位 吉田 唯 (3-1)
- ・男子低4×100m R 第6位 押野 煌 (1-2) 近野陽希 (2-3)  
庄司星蓮 (1-2) 相田大樹 (2-4)

## ☆柔道競技

- ・男子55kg級 第1位 宇田晴哉 (3-2・戸沢道場) **東北・全国大会出場！**

## ☆軟式野球競技

- ・天童一・二・三・四チーム 第3位

## ☆体操競技

- ・女子個人総合 第5位 伊藤優梨香 (2-2・月山クラブ) 東北大会補欠

## ☆剣道競技

- ・男子団体 予選敗退 ・男子個人 一回戦・二回戦敗退

## ☆ソフトテニス競技

- ・男子個人ダブルス 二回戦敗退

## ☆ソフトボール競技

- ・天童一・三・四・中山チーム 一回戦敗退

## ☆バレーボール競技

- ・男子 VC天童 二回戦敗退

※VC天童は全国ヤングクラブバレーボール大会県予選を突破し、和歌山で9月開催の全国大会へ出場します。

## 一学期終業式 学年代表の言葉

### 「一学期を振り返って」

この一学期を振り返って、成長できたと感じていることが三つあります。一つ目は、友との関わりです。入学当初は、違う小学校出身の生徒も多くて緊張してしまい、自分から話しかけることがあまりできませんでした。でも、日がたつにつれて少しずつ会話が増え、今では気軽に話したり、一緒に遊んだりできる友だちがたくさんできました。お互いを理解し合えるようになってきたことで、人との関係の大切さを改めて実感しました。これからも相手を思いやりながら、よりよい関係を築いていきたいです。二つ目は、学習面です。初めての定期テストでは、思ったよりも得点につながらず、甘さがあったことを感じました。しっかり勉強していたつもりでしたが、「覚えたり」で終わっていた部分が多かったのだと思います。これをきっかけに、「ただ覚える」のではなく、「理解し直すこと」や「繰り返し復習すること」の大切さに気づきました。夏休みでは苦手な内容にしっかり向き合い学習に取り組んでいきます。三つ目は、生活の中での姿勢です。1学期は特に、「あいさつ」を大切にしました。朝の登校時や先生に会ったとき、自分から元気にあいさつするように意識して行動しました。最初は少し勇気がいりましたが、続けていくうちに自然とできるようになり、相手の笑顔が返ってくると自分も嬉しくなりました。四中の宝である「明るいあいさつ」を、これからも大切にしていきたいです。一学期では、新しい環境の中で不安なこともありましたが、その中で自分なりに考え、行動し、少しずつ成長できたと思います。二学期は、今回の経験を活かしながら、もっと前向きに挑戦していきたいです。

1年1組  
伊藤 雄太

### 「一学期の学びを二学期の成長へ」

私は夢絃学年を全体的にみて、一学期を通していろいろな経験をして大きく成長することができたと思います。一年生の頃は落ち着きが少し欠けていたり、時間を意識して生活するという事があまりできていなかったけれど、二年生になり、一人一人が自覚を持ち、少しの心がけによって、二分前着席やウォームアップ学習を積極的に取り組む事など目標への達成意欲が見られ、自分たちに変化が見られた期間だと感じました。

私自身も一学期で大きく成長できたと感じています。まずは駅伝大会で、男女ともに県大会出場できたことです。毎日のように練習を駅伝メンバーと一緒に頑張っており、結果も残すことができ本当に嬉しかったです。みんなで一つの目標に向かって走れたことが何より、とても楽しかったです。次に、バスケの地区中総体で三年生と一緒に最後の試合に挑めたことです。県大会出場はできませんでしたが、バスケ部全員で練習した時間は、私にとってとても大切な時間になりました。先輩方から学んだかっこいい姿を目指して頑張りたいです。今後、今以上に必死に努力して、もっとバスケのプレーが上手くなるよう、日々の練習を全力で取り組んでいきたいです。学習面では、一年生の頃と比べて、定期テストに向けて自分なりに勉強方法を考え工夫できるようになり、集中して取り組むことができました。しかし、満足する結果ではなかったため、二学期は、テストまでに、計画的に家庭学習等取り組み点数アップにつながるよう、勉強方法の改善策を考えていきたいです。

一学期を通して、仲間の大切さ、人との関わり、毎日の時間の使い方の大切さなど、様々な経験ができたからこそ、学ぶことができたと感じます。

最後に、私が夏休み中がんばることを宣言します。勉強では、今回の定期テストの復習をきっちりとし、習った内容がよく記憶に定着できるよう、繰り返し覚えることを頑張りたいです。そのために、一日のスケジュールをしっかりと立て、苦手意識をなくし、習慣化できるよう、心がけます。バスケでは、新人戦に向けて、特に基礎練を繰り返し行い、土台となる技術や能力を身につけていきます。スキルやパフォーマンスを向上させるために、繰り返し練習したり、今できることは何なのかを考えて、「県大会出場」を目標に、チーム全体で指揮を高めていきます。この夏休みの頑張りで成果は変わるということを信じて、夏休みを有意義に過ごしたいです。そして、二学期もより成長できるように精一杯頑張ります。

2年1組  
内藤 とあ

### 「一学期を振り返って」

私にとって三年生の一学期は、部活動に集中した四ヶ月間でした。

私は、陸上部で高跳びをしていました。2年生の地区中総体からの一年間どんなに練習しても、まったく記録が伸びず、部活の仲間が自己ベストをどんどん更新している中いい結果を出せず、ずっと悔しい思いをしていました。

三年生になり、引退が近づき練習できる期間も少なくなってきたので、一回一回の練習を大切にすることを心がけてきました。また強い人と自分を見比べて、何ができていないか、どうすればできるようになるのかを考えながら自己ベスト更新のために集中して練習に取り組むことができました。

その結果、先日行われた県大会では、最後の最後で自己ベストを更新することができました。私は努力が無駄ではなかったこと、諦めずに努力することには必ずいい結果がついてくるということを実感することができました。しかし、惜しくも五位という結果で東北大会の切符を手に入れることはできず、まだ悔しい思いが残っています。これからは、その悔しさを受験勉強に向けて、志望校合格という目標に向かって励んでいきたいです。

二学期は、体育祭や合唱コンクールもあり、まだまだ忙しい日々が続きますが、部活動でつちかっ集中力や諦めない心を力に勉強を頑張っていきたいです。

3年2組  
吉田 唯

# To the Next Stage

～四中前進！「学び」で一歩一歩のNextStageへ～

7月号B面

7月24日発行



一学期終業式のあいさつより

## 「学び」から「前進」！そして「挑越」へ四中生！

校長 石山 重典



## さあ始動！県中駅伝競走大会へ走り出す！

10月4日（土）の県中駅伝競走大会に向けて、新たにチームの結団式が行われました。男子キャプテン井藤慶さん、女子キャプテン横山優乃さんによる力強い決意表明がありました。新たなメンバーでまた踏み出しました。写真は結団式の様子です。

○71日間の1学期が終わりました。皆さんにとって、どのような学期になったでしょうか。あっという間に過ぎたという感じが、振り返ってみると四中生のキラキラ輝いている姿、一生懸命取り組んでいる姿、そして今年のテーマである「学び」の姿がいたるところにあったと思っています。

○私が特に印象に残っていることを振り返ってみます。

### ・4月12日 地区駅伝大会

4月早々に行われた「地区駅伝大会」は、年度の初めにして四中が一つになった日だったと思います。練習を積み重ね選手として走った人、一緒に練習してきて本番は選手の補佐役としてくれた人、応援をリードしてくれた応援団や生徒会執行部、そして声の出る限り応援した人、そして、先生方、四中のみんなの思いや力が結集し、女子優勝、男子準優勝と県大会への切符を勝ち取りました。みんなで勝どきをあげ、みんなでとった写真、すばらしい四中のスタートとなりました。

### ・5月1日 ようこそ先輩シンポジウム

創立記念行事として、今年は先輩から学ぶ「ようこそ先輩シンポジウム」を企画し、社会で活躍している四中の先輩6名をお招きし、話をいただきました。今の仕事の話や中学時代の話、四中生に期待することなど。皆さん一人一人の感想を読みましたが、先輩方の話から「志高く前進」ということを意識した人もいたようですが、「回り道してもよい」「失敗してもよい」「急がなくてもよい」と先輩の話を読み安心したという感想が心に残りました。逆境を楽しんでいるような先輩の姿がキラキラ輝いてかっこよく見える。そんな先輩方の生き方から学んだ日でした。

### ・6月28日～29日 全日本通信陸上大会山形県大会（酒田）

陸上部の選ばれた選手が参加した大会です。この大会の男子共通800mに出場した井藤慶君のことを話します。慶君はこの大会で全国大会標準記録を突破し、全国大会への切符を手に入れました。全国大会に出場するために突破しなければならない記録いわゆる標準記録は1分59秒50です。400mトラックを2周する800mを約120秒で走らなければなりません。100mを15秒以内でかけ抜けるわけです。スタートし慶君は先頭に立ち、ぐいぐい引っ張ります。慶君の後ろにピタッと選手が張り付きますが、そんなことは関係なく、慶君は自分の記録との勝負に集中しています。慶君は倒れこむように、まさしく全力を使い切ってゴールしました。記録は1分59秒02。0.48秒標準記録を上回り、全国大会への切符を手にした瞬間でした。自分との闘いに正々堂々と臨み挑んでいる姿であり、全国大会への出場の壁を乗り越えた姿であり、生徒会スローガン「挑越」の姿がリアルに見られた瞬間だったと思っています。

### ・7月15日 総合学習発表会

校内オンラインで、各学年ごと2つの成果を発表してくれました。どの学年もよくまとめてくれました。その中でも1年生の地域探訪は、地域の会議等に出かけるたびに「四中生と話が出来てよかった」「真剣に話を聞いてくれました」「鋭い質問もありました」と声をかけていただきました。

地域の宝である四中生。四中生のあいさつや合唱や学習する姿を地域の方々にみてもらいたい。四中生が地域の力、希望、未来となつてほしい。それが、地区班会での話し合い、行動に移していくと聞いてとても嬉しくなりました。

### ・7月18日～22日 県中総体

それぞれの競技、それぞれ会場でドラマがあったと思います。私もそれぞれの競技会場で声を張り上げ応援してきましたが、一番印象に残ったのは、初めてみたVC天童での四中生の活躍する姿でした。部活動ではなく、バレーボールクラブとしての活動をしているので、応援に行くのは初めてでした。3年生の伊織君や遥馬君、舜弥君、軽部君がコートで躍動している姿が、とても新鮮でかっこよくて、入っているような面があり、学校の姿はあくまでもその人の一側面であり、人は多面的にみなければならないと強く思ったのです。365色を把握することは、まだまだ修行が足りない私です。学びました。

○さて、いろいろ振り返りましたが、私が入学式の式辞の中でガーベラの花の話をしましたが覚えているでしょうか。白いガーベラには「希望、期待」、赤は「挑戦、限りなき挑戦」、ピンクは「思いやり、愛情」、黄色は「やさしさ、究極の愛」、オレンジは「冒険心、探究心」と。そして、10本のガーベラの花束には「前進」という意味があるという話です。

この話からすると、四中生は一人一人が違うものであり、性格も得意なことでもすべて違うわけです。一人一人に意味があり、この365人の仲間が一つの束になることは「前進」という言葉では足りない、「挑戦」とか「壁を打ち破る」とか、「限界を超える」とか、全方向にエネルギーの塊が進んでいく、生徒会スローガンの「挑越」することなんだと感じます。

○一学期を振り返り、総括し、二学期にある「合唱コンクール」や「体育祭」「県駅伝大会」「新入大会」などが、さらに「挑越」したものになるように、生かしていきましょう。

○最後に、いつもの約束です。二学期の始業式で、誰一人欠けることなく登校していること願っています。熱中症や水の事故、交通事故など自分の命は自分で守る四中生であることを皆さんと約束して、一学期の終業式あいさつとします。それでは、よい夏休みを！

## 天童地区少年の主張大会へ四中代表決まる！ 「四中の学び」を天童地区へ！ 9月2日、市民文化会館にて！

天童市防犯協会主催の標記大会が開催されます。その学校代表を選考する校内弁論大会が7月22日、校内オンライン（動画配信）で行われました。本来であれば体育館で一堂に会して実施している本大会も、熱中症対応ということでこのスタイルでの実施にしたところです。

各学年から各2名、合わせて6名の弁士が堂々と主張しました。代表は以下2名になりましたが、四中生一人一人が国語の時間で学んだ弁論の書き方を基本にして作成し、学級や学年弁論大会で発表しました。いろんな「考え」や「視点」があることを学んだ時間になりました。

<代表者>

後藤 紅愛（3-1）  
「自分らしさを見つける」

芦野ひなた（2-3）  
「生きる希望と幸せの形」



71日間の一学期、無事終了しました。保護者の皆様、地域の皆様方には、ご理解、ご協力を賜りました。誠にありがとうございます。四中の使命は、地域の宝である四中生が社会で活躍する姿で、学区の皆様を幸せにすることと思っています。開発途上の宝たちがまだまだ磨かれますよう、ご指導を賜りますようお願いいたします。暑い夏休みとなりそうです。皆様にとっても、四中生にとってもホットな夏になり、その「学び」で成長できることを祈念いたします。

石山